

ワークショップ

日本の美術館と ブルターニュ

写真撮影 / 小泉順也

2023年3月、国立西洋美術館で「憧憬の地 ブルターニュ—モネ、ゴッコン、黒田清輝らが見た異郷」、SOMPO美術館で「ブルターニュの光と風—画家たちを魅了したフランス〈辺境の地〉」が開幕した。ブルターニュをテーマとする展覧会が同時に開催されたのは偶然だが、日本においてフランス美術が広く親しまれてきた歴史的背景があつてのことである。今回は、展覧会を担当する両館の学芸員を迎え、日仏美術交流だけでなく、ポストコロナの美術館活動も視野に入れた議論の場を用意したい。

趣旨説明

第1部

13:30~15:10

袴田紘代（国立西洋美術館主任研究員）
「憧憬の地 ブルターニュ」展企画・構成の経緯とその趣旨

岡坂桜子（SOMPO美術館学芸員）
「ブルターニュの光と風」展について—カンパール美術館コレクションを中心に—

小泉順也（一橋大学言語社会研究科教授）
日本の美術館に残されたブルターニュの痕跡

新井晃（一橋大学言語社会研究科博士後期課程）
ブルターニュに魅了された20世紀の作家たち

第2部

15:30~16:30

全体討議
閉会の辞

ワークショップ参加申し込みはこちら



2023年

5月22日（月）

13:30 ~ 16:30

開催形式

Zoomミーティング

主催 一橋大学大学院言語社会研究科
（科研費）日本の美術館とフランス近代美術コレクション：
多様性と同質性をめぐる国際比較（22K00121）

関連展覧会

「憧憬の地 ブルターニュ—モネ、ゴッコン、黒田清輝らが見た異郷」展
2023年3月18日—6月11日、国立西洋美術館
<https://bretagne2023.jp/>

「ブルターニュの光と風—画家たちを魅了したフランス〈辺境の地〉」展
2023年3月25日—6月11日、SOMPO美術館
<https://www.sompo-museum.org/exhibitions/2022/bretagne2023/>